



Subaru

男声合唱団

ニュース No.316

'11. 08. 16

東日本大震災復興支援・障害者自立支援

永井喜代子「心のはけはし」出版記念

絵手紙コンサート 開催 ...8月14日...

□8月14日（日）、西宮プレラホールにて東日本大震災復興支援・障害者自立支援、永井喜代子『心のかけ橋』出版記念「絵手紙コンサート」（主催：心のかけはし絵手紙コンサート実行委員会、後援：西宮市・神戸市・神戸市教育委員会）が開催され、「男声合唱団昴」は、永井喜代子さんを中心に実行委員会7団体（芦屋朗読の会、夢くらぶ、とよの合唱団、西宮さくらんぼ合唱団、合唱団TERRA、NPO虹のかけはし、男声合唱団 昴）の一員として参加出演しました。300席のホールは参加団体も含め満席となりました。

□東日本大震災から避難されてきたご家族、障害者自立団体にも声をかけてご招待し会場に迎えました。



□開演は14時ですが、各団体は午前中に集合し、リハーサルや各団体の担当の確認など準備をしました。「昴」は「シルクロード」、「歎びのナーダム」（初演）、「ねがい」の3曲を、本並美徳指揮、早川奈穂子ピアノで熱演し好評でした。参加は26名でした。

□ハート形のメッセージカードに皆一言ずつ書いて永井さんに渡し、永井さん作の「いのちの樹」に張り付けて、被災地に届けます。当日それを作りました。

□参加各団体の心のこもった「演奏」や「朗読」に加えて、「心のかけはし」から生まれた創作曲、「絵手紙」と「風の花の色」を歌唱指導し、全体合唱しました。昴は定例レッスンでこの2曲を練習してきましたので、会場のリード役をしました。



□出演の団体は「演奏者」であり「組織者」であり「観客」であり「スタッフ要員」という企画で、各団体が「受付」、「案内」、「義援金」、「メッセージカード」や「アンケート回収」をそれぞれ担当したなか、「昴」はロビーでの「絵手紙展示」と、会場での「心のかけはし普及」の担当をしました。

□コンサートのあと会場を「民芸居酒屋」に移して、反省・交流の「打上げ」をしました。



□永井喜代子さんと三牧英範さんの「絵手紙」交流については、すでに、「昂ニュース№290」で「特集」しましたが、その後、今回の「絵手紙コンサート」に至る経過を「産経新聞 阪神版 8月8日」が大きく取り上げていますので、転載・紹介します。(毎日新聞阪神版でも詳しく記事になりました)。

心のかけはし 被災地にもエール

伊丹市の女性と福岡県の男性障害者が続けている
絵手紙交流を綴った「心のかけはし絵手紙10年のあ
と」の出版を記念して「絵手紙コンサート」が14日
西宮プレラホールで開かれる。2人が築いた心と心の
かけはしを東日本大震災の被災地にもつなげようと
県内外の合唱団の協力でエールの歌声を響かせる。
• • • • • • • • • • • •

伊丹市の永井喜代子さん(80)と福岡の三牧英範
さん(37)。父親が三牧さんを思つて作った詩を新
聞で見て永井さんが感銘、絵手紙を送るようになつ
た。三牧さんはしだいに届けられる絵手紙に励まされ
自ら詩を作るようになったという。

「いつも絵手紙を待つてくれたから10年間続けられ
た。私の心を送つていました」と永井さん。

本は今年2月交流10年を記念して永井さんが自
費出版、友人の紹介で本を見た合唱団TERRAのデ
ィレクター村嶋由紀子さんが心を打たれて作詞、夫で
合唱団代表の檀美智知生さんが作曲、オリジナルの
「絵手紙」という曲を作った。

出版記念パーティーで同曲を披露、永井さんと三牧
さんが一度も対面したことがないことを知り、初対面
する機会を作ろうと計画。直後、東日本大震災が発生
したことでの「被災者に生きる力を届けたい」と知人ら
に呼びかけ、県内や大阪の合唱団などの協力で「絵手
紙コンサート」を開くことにした。

同コンサートは5合唱団が参加、三牧さんの詩をも
とにした曲「風の花の色」や童謡などを披露する予定
で、福祉関係など2団体も協力する。

残念ながら三牧さんは体調不良で来られなくなつ
たが、永井さんは「10年間の交流で一枚の絵手紙に
生きる力を引き出す力があることを実感している。被
災地の人たちにも元気と生きる喜びを伝えたい」。
午後2時から千円。収益金の一部は岩手県陸前高田
市などの障害者施設に送金予定。避難している被災者
は無料で入場できるという。



西島さんの写真遊び

広島平和公園にある「韓国人原爆犠牲者慰靈碑」。今年も8月5日、42回目の慰靈祭が開かれ、韓国人女性たちが舞い踊った。



手前にある碑文には以下のように記されている。

慰靈碑の由来

第二次世界大戦の終り頃 広島には約十万人の韓国人が 軍人、軍属、徴用工、動員学徒、一般市民として在住していた。

1945年8月6日原爆投下により、2万余名の韓国人が一瞬にしてその尊い人命を奪われた。

広島市民20万犠牲者の1割に及ぶ韓国人死没者は決して黙過できる数字ではない。

爆死したこれら犠牲者は誰からも供養を受けることなく、その魂は永くさまよい続けていたが、1970年4月10日 在日本大韓民国居留民団広島県本部によって悲惨を強いられた同胞の靈を安らげ 原爆の惨事を二度と くり返さないことを希求しつつ平和の地、広島の一隅に この碑が建立された。

望郷の念にかられつつ異国之地で爆死した靈を慰めることはもとより 今もなお理解されていない韓国人被爆者の現状に対する関心を喚起し一日も早い良識ある支援が実現されることを念じる。

韓国人犠牲者慰靈祭は毎年8月5日この場所で挙行されている。

在日韓国青年商工人連合会 及び有志一同

十日の後に

「白い服が蝶のように舞い踊る」



「溶けてよじれた一升瓶よなぜ！なぜ？」